

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	リサーチワークショップⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	35010			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	制御情報工学科			対象学年	5		
開設期	2nd-Q			週時間数	4		
教科書/教材	「新・明解C言語入門編」柴田望洋 著 (ソフトバンク・パブリッシング)						
担当教員	久保田 良輔						
到達目標							
低学年に提示するテーマのスケジュール管理・指導教材の作成ができる。 低学年で身につける知識や技術について理解し、指導することができる。 低学年の実験、レポート作成などのサポートを行い、自身の活動内容についてレポートにまとめることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベル（優）の目安	標準的な到達レベル（良）の目安	最低限の到達レベル（可）の目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		担当教員とテーマの目標や目的を設定できるとともに、達成に向けたスケジュールを自主的に構築し、指導教材の作成ができる。	担当教員とテーマの目標や目的を設定できるとともに、担当教員が主導的に達成に向けたスケジュールの構築や指導教材の作成ができる。	担当教員が与えたテーマの目標や目的を理解し、達成に向けたスケジュールの構築や指導教材の作成ができる。	テーマの目標や目的を設定できず、達成に向けたスケジュールの構築や指導教材の作成ができない。		
評価項目2		低学年で身につけるべき知識や技術について調査し、明確に説明・指導ができる。	低学年で身につけるべき知識や技術について調査し、概ね説明・指導ができる。	低学年で身につけるべき知識や技術について調査し、説明・指導ができる。	低学年で身につけるべき知識や技術を説明・指導できない。		
評価項目3		低学年の実験、レポート作成などのサポートを自主的にを行い、自身の活動内容をレポートにまとめることができる(報告できる)。	低学年の実験、レポート作成などのサポートを指示された上で行い、自身の活動内容をレポートにまとめることができる(報告できる)。	低学年の活動について把握し、自身の活動内容をレポートにまとめることができる(報告できる)。	低学年に対する指導などを行わず、活動内容をレポートにまとめることができない(報告できない)。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	第2学期開講 各専門学科で行われる低学年のリサーチワークショップⅠAで実施される課題・グループワークの指導・担当教員のサポートを行うことで、コミュニケーション能力や、チームで仕事するための能力を身につける。担当教員と実施内容について議論・決定し、ゴールに至る指導・教材について検討、スケジュールリングを行うことで自主的な課題解決能力を養う。						
授業の進め方・方法	この科目では、低学年のリサーチワークショップⅠAの内容について把握し、計画的に進めるために適切に指導することが求められる。そのため、事前（第1学期）に準備を行いグループでの学習を円滑に進めることが必要である。またレポートの指導などを行う場合は、添削・修正を行うために十分な知識や技術の理解が要求される。						
注意点	この科目では、学生が自主的に低学年を指導することが求められる。そのため、担当教員からの指示などに頼らず、担当教員と打ち合わせを行い、担当する役割を積極的に担うことが期待される。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	2ndQ	9週	イントロダクション グループワーク	本講義の進め方およびゴールを把握できる。 低学年が身につける知識や技術をまとめ、整理することができる。			
		10週	低学年グループワークの指導	低学年向けの教材を作成し、それをもとに説明することができる。			
		11週	低学年グループワークの指導	低学年向けの教材を作成し、それをもとに説明することができる。			
		12週	低学年グループワークの指導	低学年向けの教材を作成し、それをもとに説明することができる。			
		13週	低学年グループワークの指導	低学年向けの課題を設定することができる。			
		14週	低学年グループワークの指導	低学年の課題達成に向けて、指導・サポートすることができる。			
		15週	低学年グループワークの指導	低学年のレポート作成を指導することができる。			
		16週	まとめ	本講義で学んだ内容を整理するとともに、研究活動を行うための必要な素養や視野の広さを理解できる。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	50	50
専門的能力	0	0	0	0	0	30	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	20	20